


審査結果報告書

2021年 / 月 25日

主査 氏名 岩瀬 優美 

副査 氏名 西中 克俊 

副査 氏名 塚本 裕子 

副査 氏名 井上 博久 

1. 申請者氏名 : DM17031 三浦 雅子

2. 論文テーマ :

Impact of mothers' parental bonding experience on emotional availability (EA) with their children

(母親の被養育体験が子どもとの情緒応答性(EA)に与える影響)

3. 論文審査結果 :

母親の被養育体験が、母親と子どもの双方の情緒的コミュニケーション能力 (Emotional Availability) にどのような影響を与えるかについて検討した貴重な研究である。特に、母親と子どもの Emotional Availability を質問紙で測定するのではなく、母親と子どもの交流場面をビデオで録画し、評価を行っていることに加え、母親に対して被養育体験について半構造化面接を行い、質的に検討を加えている点が本研究の素晴らしい点である。

母親の被養育体験について KJ 法で分析した結果、Stable parenting, ambivalent parenting, unstable parenting の4つが抽出された。母親の被養育体験が stable parenting の場合、母親と子どもの Emotional Availability は肯定的であったが、母親の被養育体験が unstable parenting の場合、母親と子どもの Emotional Availability は否定的となりやすいが、肯定的であるケースも含まれていた。以上より、母親の被養育体験が、現在の子どもの親子関係に影響するという傾向は示されたが、被養育体験と Emotional Availability との間に相関は認められなかった。今後も引き継ぎ検討し、不適切な養育により心的外傷を抱えた人は、後年、親になって自分の子どもとの関係に影響を与えるという世代間連鎖を防ぐための知見を得ることが期待される。

審査会では議論が活発になされ、質問に対しては適切に回答していた。以上より、本研究は 博士にふさわしいと判断します。